

第8章 ビジョンの基本理念と推進プラン

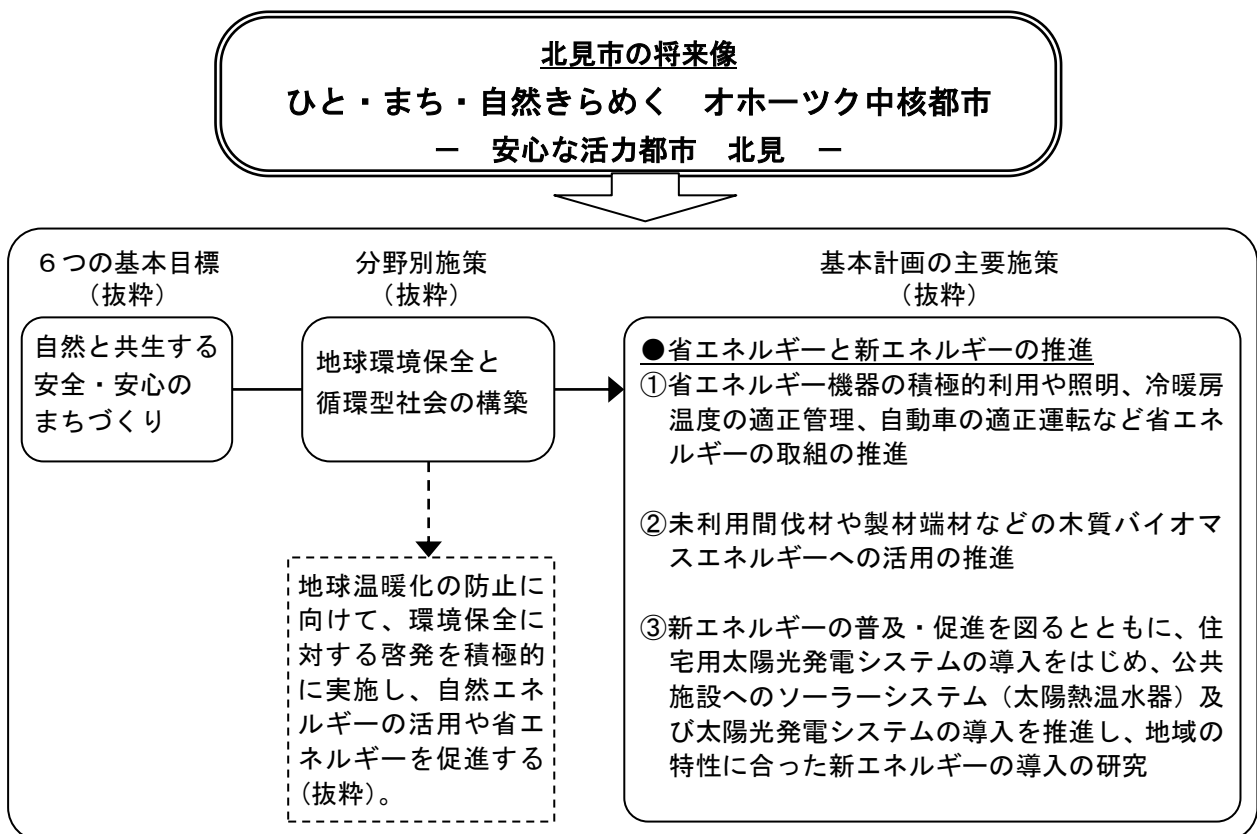
8-1 ビジョンの基本理念と基本的視点

(1) 北見市のまちづくりにおける新エネルギー・省エネルギーの位置づけ

北見市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくための指針となる「北見市総合計画(基本構想期間：平成21年～30年)」では、今日の社会経済動向の一つとして「グローバル化の進展と環境問題の拡大」を指摘するとともに、本市の発展課題の一つとして「恵まれた自然環境の保全とともに、安全で安心して暮らしていける居住環境の整備や地球規模での環境問題にも取り組むことの必要性」を挙げている。

当計画は、「ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市 ー安心な活力都市 北見ー」を市の将来像とし、豊かな自然に恵まれた大地を大切に育て、人と人が支えあう、活力あるオホーツクの中核都市を目指すものである。

そして、本市の将来像を実現するために6つの「まちづくりの基本目標」を掲げており、その一つである「自然と共生する安全・安心のまちづくり(環境・安全)」において、分野別施策として「地球環境保全と循環型社会の構築」を位置づけし、そのもとで新エネルギー・省エネルギー推進のための施策を展開することとしている。



(2) 新エネルギー・省エネルギーの取組の基本理念

北見市のまちづくりにおける新エネルギー・省エネルギーの位置づけ、新エネルギーの賦存状況に基づく可能性、本市におけるこれまでの導入・実績等を踏まえて、本市の新エネルギー・省エネルギーの取組の基本理念と基本的視点を、以下に設定する。

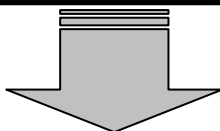
恵まれた自然環境のもと、市民・事業者・行政の協働と地域の大学・研究者の英知を基盤とし、持続的発展が可能な循環型社会と地球環境に配慮したまちづくりの実現に向けて、本市における新エネルギー・省エネルギーの取組を推進していく。

新エネルギー・省エネルギーの取組の基本理念

快適な生活環境を守り育てる

「創エネルギー都市」の実現

— 新エネルギー・省エネルギーの実践による、ひと・まち・自然が共生するまちづくり —



新エネルギー・省エネルギーの取組の基本的視点

- ①太陽エネルギーなどの新エネルギーの活用実践の推進
- ②地域産業振興に資する新エネルギーシステムの導入・誘致
- ③地域の大学・研究者との連携によるエネルギーシステム等の共同研究や技術開発の推進
- ④市民・事業者・行政の協働による、環境負荷の小さい行動と省エネルギーの取組の推進
- ⑤新エネルギー・省エネルギーへの理解と実践に向けた普及啓発の推進
- ⑥エネルギーとIT（情報技術）を施策に取り入れた北見スマートコミュニティの推進

(3) 新エネルギー・省エネルギーの取組の基本的視点

①太陽エネルギーなどの新エネルギーの活用実践の推進

北見市では、住宅用太陽光発電システム導入の補助金制度を通じた住宅への導入拡大や、公共施設等における太陽光発電システムの導入、民間事業者におけるコージェネレーションシステム等の導入が進んでいる。

今後、北見市で賦存量が比較的多くて活用が期待される太陽光発電を始めとする、太陽熱利用、温度差熱利用（地中熱ヒートポンプ）、雪氷熱の積極的な活用実践を推進する。

また、有力な新エネルギー等の資源として賦存しているが有効活用に課題がある中小水力、各種バイオマス、温度差熱利用（下水熱利用）、廃棄物発電、し尿・浄化槽・下水汚泥に関する利用可能性の調査研究に取り組んでいく。

②地域産業振興に資する新エネルギーシステムの導入・誘致

北見市では地域の特性を活かした先駆的かつ活発な新エネルギー利用技術の開発や導入の取組が進められてきており、その実績やノウハウを活用し、地域産業の振興を支援するための新エネルギーシステムの導入・誘致を推進する。

道内上位にある年間日照量と太陽光発電システム導入率の高さ、及び大面積で安定した地盤で土地利用が可能な市有地を有することを優位性として、メガソーラー発電所の誘致を推進する。

③地域の大学・研究者との連携によるエネルギーシステム等の共同研究や技術開発の推進

地域内には北見工業大学を始めとして多くの研究者を有するとともに、市においても太陽エネルギーやし尿・浄化槽・下水汚泥、ごみ、家畜ふん尿等のバイオマスを中心としたエネルギー利用技術に関する研究蓄積がある。

これら研究等で培われてきた知見・ノウハウを基盤として、産学官の連携・協力のさらなる強化により、地域特性に合ったエネルギーシステム等に関する共同研究・技術開発を推進する。

④市民・事業者・行政の協働による、環境負荷の小さい行動と省エネルギーの取組の推進

環境にやさしい社会づくりに向けた省資源・省エネルギーの推進にあたっては、市民一人ひとりが無駄なエネルギーを消費しないように心がけることも重要である。そして、一人ひとりが自らのライフスタイルを見直し、省エネルギーにつながる行動を実践することで、市全体として大きな省エネルギー効果が期待できる。

市民・事業者・行政の協働による省資源・省エネルギーの取組を積極的に実施する。

市全体で省エネルギー製品・技術の積極的な利用や、照明・冷暖房温度の適正管理、産業系動

力等の効率化、アイドリング停止などの適正運転による省エネルギーの取組を推進する。

また、環境への負荷の小さい物品等の購入を推進し、環境保全に配慮した売買・消費活動の普及に努める。

⑤新エネルギー・省エネルギーへの理解と実践に向けた普及啓発の推進

環境に配慮したまちづくりに向けた新エネルギーの導入と省エネルギーの実践にあたっては、市民や事業者、行政がそれぞれの立場で取組の意義を理解し行動していくことが重要である。

市民・事業者等に各種情報を提供して新エネルギー・省エネルギーに関する関心を喚起し、環境意識の啓発や環境負荷の小さい行動を促進する。

公共施設等への新エネルギーシステムの率先導入による環境意識の向上、市民・事業者の新エネルギー・省エネルギーシステム導入等に対する市による支援策の実施、関連情報の発信・提供や講演会・セミナー等の実施、学校における環境教育の実施など、各種の普及啓発活動に取り組んでいく。

⑥エネルギーと IT（情報技術）を施策に取り入れた北見スマートコミュニティの推進

北見市全体のエネルギーの有効利用や再生可能エネルギーの活用などを、交通、医療、公共施設、公共事業、市民のライフスタイルまで複合的に取り入れることにより、安全で安心な持続的まちづくりの実現が期待される。

北見市で企画・計画される様々な施策について、エネルギーと IT 技術の導入による環境負荷の低減効果、省エネルギーの効果、市民の受ける付加価値などを同時に検討することで、「ひと・まち・自然きらめく オホーツク中核都市 ー安心な活力都市 北見ー」をより推進する。

8-2 新エネルギー及び省エネルギーの推進プラン(ロードマップ)

北見市における新エネルギー及び省エネルギーの取組推進のためのロードマップを、次ページに示す。

ロードマップにおける実施期間の区分は、以下の通りを想定する。

- ・「**当面**」：ビジョン策定後から3年以内を目処とする期間
- ・「**中期**」：ビジョン策定後5年以内を目処とする期間
- ・「**長期**」：ビジョン策定後10年以内を目処とする期間